

		測定する能力		
論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力	論理的表現力
日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。	文章を論理的に読む力。趣旨を的確に把握する力。小説などを客観的に読む力。	文章構造を論理的に解読する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。	他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

《問題Ⅰ》 論理的言語力

(40点)

第一問

■解答 (各3点)

- (1) オ (2) エ (3) イ

◆解説

一文の論理構造を読み取る問題。

- (1) 「授賞式は」↓「行われる」が主語と述語。「ノーベル賞の」↓「授賞式は」↓「行われる」、「創設者である」↓「ノーベルの」↓「命日に」↓「行われる」とそれぞれがつながっています。
- (2) 「実験が」↓「ある」が主語と述語。「来週の」↓「水曜日は」↓「ある」、「午後から」↓「ある」、「化学の」↓「実験が」↓「ある」とそれぞれがつながっています。
- (3) 「チョウチョが」↓「入ってきた」が主語と述語。「花の」↓「においに」↓「つられて」↓「入ってきた」、「部屋に」↓「入ってきた」とそれぞれがつながっています。

第二問

■解答 (7点)

K君が月世界へ行っと思った理由。

◆解説

指示語の問題。

「それ」は直前の「どうして私がそんな奇異なことを思ったか」を指しています。そこで、「そんな」の指示内容を探すと、直前に「K君はとうとう月世界へ行った」とあります。それらを字数以内にまとめたのが答え。

第三問

■解答 (6点)

ア

◆解説

指示語の問題。

何を信じるようになったのかというと、直前の「月の光が一番いい」ことだと分かっています。何がいいのかというと、影を見てみると、自分自身の姿があらわれてくること。それらが表現されているのが、ア。  
イ「月の光が必要」、ウとエは「電灯の光の下で」が×。

第四問

■解答 (各2点)

- (1) aエ (2) cア (3) dカ
- (4) bオ

◆解説

接続語の問題。

- (1) 家具の例として、テーブルやイス、ベッドが挙げられています。

測定する能力

論理的思考力

- (2) 空所直後に「からである」とあるのが根拠。
- (3) 空所直前の壁が主体の住居に対して、直後はそれと対比関係にある日本の住居になっているから、逆接。
- (4) 空所直前の具体的内容を、直後で「融通自在」とまとめてあります。

第五問

■解答 (各2点)

- (1) エ (2) ウ (3) オ (4) イ
- (5) ア

◆解説

- (1) 「ただ」が「単なる」か「無料」のどちらの意味にでも取れます。
- (2) 「息をのむ」は驚いている様子。
- (3) 「私は」に対する述語がありません。
- (4) 「今」と「現在」とが重複表現です。
- (5) 「検査を受ける」が正しい助詞の使い方です。

《問題Ⅱ》 論理的読解力A

(40点)

第一問

■解答 (8点)

その卒業が

◆解説

(b)の後の方に、「その卒業が父の心にどのくらい響くかも考えずにいた」とありますが、「その」の指示内容が直前にはありません。さらに、欠落文に「しかも」と添加の接続語があることから、「父は自分の死を覚悟していた」、その上「私の卒業する前に死ぬだろうと思いつめていた」となります。

第二問

■解答 (6点)

ウ

◆解説

先生と父との対比。父が喜んでいいるのだから、先生はそれと反対の態度。

第三問

■解答 (各3点)

- (1) ウ (2) エ (3) イ (4) ア

◆解説

- (1) 選択肢の中で、ウだけが「私」のセリフであり、他は父のもの。(1)は「私」のセリフで、直前の「不快」、直後の「卒業するものは毎年何百人だつてあります」から、ウ。
- (2) 直後の「だから」から、「嬉しい」の

- 理由が入ることが分かります。
- (3) 直後に逆接の「しかし」があることから、空所には「私」の立場に関することが入ります。
- (4) 今度は「父」の立場からのものが入ります。さらに直後の「わかったかい」から、父の考えをまとめたものが入ることが分かります。

第四問

■解答 (6点)

恐縮

◆解説

直前に「謝る以上に」とあることから、「恐縮」。

第五問

■解答 (8点)

父が床の間に行つて正面に証書を置いた時。

◆解説

どの時か、直前から検討すると、「父は床の間の所へ行つて、誰の目にもすぐはいるような正面へ証書を置いた」時だと分かります。あとは、該当箇所から字数条件に合わせて要点を取り出し、まとめます。

《問題Ⅲ》 論理的思考力

(40点)

第一問

■解答 (各4点)

- (1) から 開いた (2) 言った まで

◆解説

- (1) 「細かいところまで資料を丁寧に読んだ」という一文なので、「から」「開いた」が不必要。
- (2) 「あなたには本当のことを打ち明けようと思う」という一文なので、「言った」「まで」が不必要。

第二問

■解答 (各3点)

- (1) 思わない (2) 疲れたなら

◆解説

- (1) 「決して」は「〜ない」と否定でしか使われません。
- (2) 「もし〜ならば」と決まり切った使い方を使います。

第三問

■解答 (6点)

私の趣味は、山梨県と静岡県にまたがっている富士山の写真を撮ることです。

◆解説

①の文に②を加えるので、②を「富士山」を説明する文に変形し、①に挿入します。

第四問

■解答 (10点)

政治は世の中の出来事と密接に関わっていることで、大人になる前にそれらに注意することで政治に関心をもち始めるべきだ。

◆解説

文章の要点を読み取ります。話題は「政

治」。逆接「しかし」の後に主張が来ます。そこで、「政治は」「世の中の出来事と密接に関わっています」が主張A。最終結論Bは末尾の「大人になる前に、世の中で起きていることに注意して、自分の政治への関心や問題意識をつくりあげる」。後はAだからBという因果関係でまとめます。重複する言葉は指示語に置きかえましょう。

#### 第五問

##### ■解答 (10点)

日本では、街の美化や防災のために電柱を立てることを禁止する動きが高まっています。

##### ◆解説

話題は日本における「電柱」。結論は、末尾の「日本でも電柱を立てることを禁止する動きが高まっています」。その理由として、「街の美化（景観）」と、「防災面」が挙げられています。

### 《問題Ⅳ》 論理的読解力B

\*\*\*

(40点)

#### 第一問

##### ■解答 (8点)

F → C → B → D → E

##### ◆解説

段落Aが最初に来ることはすでに分かっています。Aでは、「笑いは不合理を母胎にする」とし、それに対して、「笑いもまた合理的でなければならぬ」と考える人が「喜劇には風刺がなければならぬ」とするのは、ここで「風刺」が登場することに注意。

風刺について述べられているのはFで、冒頭、逆接の「しかし」でつながっています。筆者は「笑いの豪華さに比べれば、極めて貧困」と風刺には否定的です。ここで「笑い⇨不合理⇨豪華」「風刺⇨合理⇨貧困」という対立関係に着目しましょう。

なぜ風刺が貧困かというと、風刺は自らを高く構えているので、風刺されるものと対等以上ではあり得ないからです。

それを受けているのが、C。Fを前提に、「風刺にも優越のない場合がある」としているからです。「風刺者自身が同時に風刺される者の側へ参加している場合」で、それは「もはや風刺と言えないだろう」としています。ここまですが風刺の否定。

残りは、BDEで、どれも「道化」に関する記述です。ただし、いきなりD「正しい道化」の話が来るのは不自然です、Eは冒頭の「だから」が段落Cとつながりません。

そこで、次にBが来ると予想できます。Bは「道化の国」についてですが、Cに続いて風刺を「道化の邪道・贗物」として否定しています。

残ったDとEの順番を考えればいいのですが、EとGの冒頭にある、二つの「だから」で論理的に解決すべきです。

段落Dは風刺に対して、「正しい道化」について述べられています。「道化」は不合理や矛盾の肯定から始まります。不合理自体を合理化しきれないから、丸呑みにして不合理のまま笑い飛ばしてしまおうというものです。

それをEの冒頭「だから」が受けています。「道化の本来は合理精神の休息だ」と、D⇨Eのつながりが決定できます。その合理精神の休息を受けて、Gの「だから」が来るのです。「だから道化は戦い敗れた合理精神が、完全に不合理を肯定したときである」と続きます。

最後はH。道化は一步手前まで合理精神の悪戦苦闘であり、明日も合理精神で苦闘するのです。今日だけ不合理のまま笑い飛ばしてしまうので、道化は純粹な休みの時間なのです。

#### 第二問

##### ■解答 (各2点)

- (1) ウ (2) イ (3) オ (4) ア (5) エ

##### ◆解説

(1) 風刺はたとえば監視総監や精神病院長を揶揄するのですから、「対象」の否定です。

(2) 不合理を笑い飛ばして、なくしてしまうのだから、「昇天」。

(3) 「精根つきはて」という慣用表現。

(4) 直前の「歯をくいしばった」から「澁面」。

(5) 直後の「大それた魂胆は微塵もない」から、「凄み」。

#### 第三問

##### ■解答 (各2点)

- (a) エ (b) ウ (c) ア (d) イ (e) オ

##### ◆解説

(a) 空所直前が、笑いの豪華さも不合理、無意味のうちにあるとしているのに対して、直後は笑いも合理的でなければならぬとする考えなので、逆接の「ところが」。

(b) 空所直前が無意味なものに笑って楽しむことができなくて、直後が「喜劇には風刺がなければならぬ」という考えを持つ「だから、順接「そうして」。

(c) 二つの「場合」を並べているだけなので、並列の「また」。

(d) 直後の「笑いの高さ深さとは」程度による」の理由が、直前に来るので、因果の「それゆえ」。

(e) 「決して〜ない」という呼応関係に注意。

#### 第四問

##### ■解答 (6点)

##### ◆解説

段落C「風刺の正体がすでに合理に属しているから」とありますが、この場合は優越のない風刺の話であり、しかも、「もはや風刺と言えないだろう」とあるので、不合理に属した風刺のことだと分かります。「風刺は本来笑いの合理性を捉え、そこを踏み外してはならない」とあるので、「もはや風刺と言えない」限り、不合理に属しているはずはです。

#### 第五問

##### ■解答 (6点)

##### ◆解説

◆解説 評論における「題」とは最終結論を語句の形にしたものです。この場合は「道化」を「風刺」と対比させながら述べたものなので、「道化」が答えです。

### 《問題Ⅴ》 論理的表現力

(40点)

#### 第一問

##### ■解答例 (8点)

一九八三年に比べて二〇〇四年には留学生は四倍に増えているが、それ以降は減少に転じている。

##### ◆解説

「推移」とあるので、グラフAの特徴を見ると、一九八三年から増加傾向にあり、二〇〇四年を頂点に今度は減少傾向にあることが分かります。

#### 第二問

##### ■解答例 (各6点)

- (1) 留学費用が留学への妨げとなっているため、学校が留学費用の一部を負担などして留学支援を行う。  
(2) 留年など帰国後の不安から留学を避けているため、留学の単位も日本で認める。

##### 【別解】

留学先の情報の少なさから留学がすすまないため、もっと積極的に留学情報を発信していく。

##### ◆解説

表Aにある四つの障害のうち二つを選び、学校ができる解決策を論理的に述べてあげれば、正解。

#### 第三問

##### ■解答例 (6点)

就職活動の時期などが留学の妨げになっているので、企業は日本人留学生向けの就職活動の時期を設ける。

##### 【別解】

就職活動の時期が留学の妨げとなってしまうため、留学先でも就職活動ができるよう現地でも採用活動を行う。

##### ◆解説

今度は企業ができる解決策。解答例以外でも、論理的であれば、○。

#### 第四問

##### ■解答例 (14点)

日本企業の海外進出の増加により、グローバルに活躍できる人材が必要となってくるが、日本人の海外留学生が減少しているため、外国人労働者の雇用がすすみ、日本人の雇用が今後減っていく可能性がある。

##### ◆解説

四つの語句の論理的関係を考えること。表Bから日本企業が世界に進出していることが分かります。「人材」という語句から、企業がすすみますグローバルな人材を必要とすることが予想できます。ところが、その一方、グラフAから、留学生が減少していることが分かります。そこで、残り三つの語句の関係を考え、「日本人」の留学生の減少、その結果、「外国人」労働者の「雇用」の増加、日本人の雇用の減少などが推測できます。